

やすらぎ通信

第 32 号 (平成 25 年 7 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

文月(七夕月)

きらきら星

作詞 武鹿悦子 作曲 フランス民謡

きらきらひかる
お空の星よ
まばたきしては
みんなを見てる

きらきらひかる
お空の星よ

きらきらひかる
お空の星よ
みんなの歌が
届くといいな
きらきらひかる
お空の星よ

今月の歌は、きらきら星です。この歌は、もともとは 18 世紀末のフランスで流行した曲がイギリスの詩人による替え歌 “Twinkle, Twinkle, little star” (きらめく小さなお星様) が童謡として世界的に広まったものだそうです。なんとモーツァルトもこの曲の変奏曲を作ったとのこと。

英語の直訳では「きらきらひかる 小さなお星様 あなたはいったい何者なの 世界の上でそんなに高く まるでお空のダイヤモンドみたいに…」となりますが、本当に夜空に輝く星は子供だけではなく大人にとっても幻想的で美しく、なおかつ不思議な存在です。

宇宙や星については、近年、天文学、素粒子物理学などの急速な発展によりその成り立ちについて相当程度解明されて来ました。しかし、一つの発見がまた新たな疑問を生み出す繰り返しで、この歌のように私たちにとって星はまだまだ遠い不思議な存在のまま夜空に輝いていてくれそうです。

梅雨の季節が終われば、夜空に煌く星たちを見つけやすい本格的な夏がいよいよ到来します。



先月号で述べた「季節のことば 36 選」によると、7 月は「蝉しぐれ、ひまわり、入道雲、夏休み」ですが、前半はまだ梅雨の最中で後半に入り、ようやくこれらのことばがイメージと合致してきます。特に、セミはその鳴き声の存在感からか、私たちに否応無く季節の到来を感じさせてくれる生き物です。

先日の新聞によると今年はアメリカ北東部で 17 年に 1 回の大量のセミが発生する年だそうです。一本の木に物凄い数のセミが集まり、その鳴き声のうるさは飛行機のエンジン音に匹敵するほどで虫の苦手な人は庭に出るのも怖いとの事です。セミはアメリカでは最も忌み嫌われている虫の一つとされるほどの話もあるようです。

17 年、あるいは 13 年周期で発生するこの種類のセミは、周期蝉あるいは素数蝉といわれ世界で最も長生きする昆虫だそうです。ちなみに日本のアブラゼミは 6 年間で地中で過ごし 7 年目に地上に出て成虫になります。セミは、一般的には短命ではかない命の例示として使われますが、どうして短命どころか昆虫類でも上位に入る寿命の長さを持っています。

セミにとっては、地中こそが安全で最良の生活の場であり、自然環境の変化が激しく天敵も多い地上での生活など真っ平ごめんで、そろそろ寿命が終わりそうな時に異性と出会いやすい地上に仕方なく出てくる訳なのでしょう。

私たちは目に見える範囲での情報のみ、いわば表層的な見方でいろいろなものの価値をつい判断し結論を急いで求めてしまいがちですが、自然界も、いろんな人々が住む世界も、一つ一つが目に見えるもの以外にそれぞれ意味ある理由を持って動き、存在していることが多々あります。セミの眼の複眼ではないですが物事を多角的に見る視点を忘れてはならないように思います。

さて、セミの鳴き声は毎年繰り返される夏の協奏曲ですが、私たちの気づかないところでセミたちの生存競争が行われているようです。今、大阪近郊で一般的にみられるセミにクマゼミ(シャアシャアシャアと鳴きます)がありますが、このセミは、一説には 1980 年代頃から急速にセミ全体数の割合を増加させてきたようです。確かに、私の子どもの頃にはアブラゼミ(鳴き声はジージー)やミンミンゼミ(鳴き声はミンミンミンミンミー…)が一般的でクマゼミを見かけるということがあまりありませんでした。それがいつの頃からか近所の公園などで一本の木に群がるようにクマゼミが張り付き、ものすごい鳴き声で存在を示すものですから、たまったものではありません。

もともと温暖な地域を好むクマゼミは近年、関東・北陸地方でも急速に棲息数の増加がみられるようで棲息地の東進・北上が進んでいるという報告もあるようです。この現象については、その理由を地球温暖化に求める説があります。確かに、近・現代になってからの急速な経済活動の拡大による地球温暖化が叫ばれて久しく、多くの気候変動の理由が温暖化に結び付けて説明されています。特に生き物はすべて自然の恩恵により生かされているものであり、自然環境の変化はその生存条件に密接に関連し、まるで敏感なセンサーのごとく生息数などに反映されます。その点で、南方系のクマゼミ生息地域・数の拡大に地球温暖化説はもっとも有力であると考えられます。

ただ、クマゼミの棲息区域の拡大については、さまざまな説があり、たとえば樹木の移設の際に根の周囲に幼虫が混在して生息地域を拡大させているという説もあるようです。その論証として、関東などでは特定の公園や人工林を中心に局地的にクマゼミが大量に発生しており、中には一足飛びに札幌でもクマゼミの鳴き声が聞こえるのはこのためといわれます。

私は、専門家ではありませんのでどの説が正しいのかわかりませんし、あるいはそのどれもが組み合わさってこのような現象が生じているのかも、と勝手に思っています。自然というものは、それほどさまざまな条件の組み合わせの中で微妙で複雑なバランスを持って存在しているもので、一つないいくつかの原因のみでは説明できないことも多いと言えます。

もっとも、それぞれ唱えられている説が皆、人間活動の所作の結果ということが皮肉にも共通項のようで、改めてセミの鳴き声がうるさくてしょうがないので公園や街路の樹木を切ってくれとの声があると聞くと、セミ、特に鳴き声の大きなクマゼミたちがどのように思って鳴いている(泣いている?)のか気になってしまいます。

NEWS

【(継) 臨床研究の新たなる発展をめざし—臨床研究センターを設置しました】

当センターはわが国の代表的な高度総合医療施設として質の高い医療を提供する役割を担っております。そのために日々進歩していく医学に合わせ新しい医療技術や医療サービスを導入し、臨床成果を検証し、不断の努力で臨床研究を積み重ねていく必要があります。

急性期医療から高度専門医療まで、総合力を生かした良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と府域医療水準の向上に貢献することが当センターの理念です。この理念に加えて、臨床医学を土台として、その病態を明確にしつつ、未解決分野への取り組み、さらに新規治療の開発を目指すための臨床研究の円滑なる推進を図る目的で、当センター内の独立した部門として平成 24 年 10 月に臨床研究部が設置され、平成 25 年 4 月には臨床研究センターに昇格しました。

臨床研究センターは 11 の研究部門と実験可能な臨床研究室からなり、専任医師 1 名と CRC2 名、データマネージャー 1 名、事務 1 名、また各部門長としては兼任医師、薬剤師、看護師から構成されています。各研究部門の概要は以下のとおりです。

第 1 研究部門 (がん)、第 2 研究部門 (腎, 心, 血管, 肺)、第 3 研究部門 (代謝, 消化器)、第 4 研究部門 (精神, 脳, 神経, 麻酔)、第 5 研究部門 (免疫, アレルギー, 移植, 感染)、第 6 研究部門 (救急, 小児, 周産期)、第 7 研究部門 (運動器)、第 8 研究部門 (生体画像, 検査医学)、第 9 研究部門 (薬学)、第 10 研究部門 (看護学)、第 11 研究部門 (医療疫学, 医療情報)、臨床研究室 (実験)

今後、当センター独自の臨床研究を推進し、また他施設と連携した大規模臨床研究、トランスレーショナルリサーチを推進し高度総合医療施設に恥じない臨床研究センターとして医学の発展と府民の健康と福祉に貢献できるよう精力的に研究を進めていく予定です。皆様方の臨床研究センターへの暖かいご支援、ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

臨床研究センター センター長 武田伸一

【(継)白内障 日帰り手術開始！！—眼科—】

当センター眼科では、白内障手術を重要手術の一つとして行ってきました。白内障とは水晶体が混濁する病気多くは加齢性変化です。自覚症状としてはぼやけて見えたりまぶしく感じられたり様々です。当科では平成 24 年には 1322 件と 10 年前と比べても大幅に増加しています。

現在まで当科では白内障手術をすべて入院手術で行ってきました。白内障手術機器の進歩や感染症対策の充実により安全性も高まってきました。また社会的な背景もあり当科での白内障手術は原則として日帰りで行うことになりました。また日帰り白内障手術の術中や終了後に万一、全身状態などが急変した場合には専門医師による対応

や入院が可能ですのでご安心下さい。

白内障手術ですが、局所麻酔で行い手術時間は15～20分程度です（時に30分以上かかる場合もあります）。通常、傷口は3mm弱で超音波により水晶体核を砕き、その周りの柔らかい皮質を吸引した後に眼内レンズを挿入します。術後は1時間程度安静の後に問題がなければ帰宅していただきます。術後の通院は必要です。重篤な合併症としては感染症などがありますが、通常のは目薬や日にち薬で良くなっていきます。詳しいことは診察時にお尋ね下さい。

眼科 主任部長 内堀 恭孝

【(継)長井美樹医長等、「摂食嚥下ケアがわかる本—食の楽しみをささえるために—」を共同執筆・出版 —耳鼻咽喉・頭頸部外科—】

3月にエピック社より「摂食嚥下ケアがわかる本」(監修松田 暉先生、編集野崎 園子先生)が出版されました。

本書は兵庫医療大学リハビリテーション学部教授で神経内科専門医の野崎園子先生を中心に、当センターから耳鼻咽喉・頭頸部外科 長井美樹医長、摂食嚥下認定看護師 山本陽子看護師と西尾依見子看護師、リハビリテーション科 大黒大輔言語聴覚士もそれぞれの専門分野で分担執筆しております。

本書の対象は患者さん、ご家族の方、介護者の方など嚥下に困っているすべての方に読んでいただけるものとなっています。摂食嚥下機能改善のための体操や訓練、姿勢、食形態、食器、食べ方や介助法、摂食嚥下を助ける装置や補助具、手術法、チューブ栄養や胃瘻についても解説されています。医療従事者の方であれば患者さんへの説明などにも使えると思います。

是非、多くの医療関係者、患者さんやご家族の方などにお読みいただければと思います。

構成 (略)

はじめに	松田 暉
9 食事介助のコツ	山本陽子・西尾依見子ほか
14 家庭でのリスク管理	山本陽子・西尾依見子ほか
18 繰り返す誤嚥性肺炎への対応	山本陽子・西尾依見子ほか
19 誤嚥イコール絶食ではない	大黒大輔
20 経鼻経管栄養・経腸栄養剤	山本陽子・西尾依見子ほか
22 誤嚥を防止する手術	長井美樹
23 嚥下を助ける手術(嚥下機能改善手術)	長井美樹
26 専門資格：摂食嚥下障害の認定資格	山本陽子・西尾依見子ほか
おわりに	野崎園子

【(継)外科から新たに呼吸器外科が独立しました！ —呼吸器外科—】

呼吸器疾患の診療におきましては、地域の先生方には平素より大変お世話になり有り難うございます。

さて、当センターの呼吸器外科はこれまでは「外科」のなかの一分野として、4つの領域（消化器外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、小児外科）の一つとして業績を積んで参りましたが、この4月から独立しております。

診療内容は、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など胸部の腫瘍性病変が主な対象です。胸腔鏡を用いた内視鏡手術による低侵襲治療を積極的に行い入院期間の短縮を図っており、腫瘍性病変の他、気胸、膿胸や胸膜炎などに対しても内視鏡治療を積極的に行っています。

また、当センターではPET-CT検診も始まっています。胸部領域における未確定の腫瘍性病変や、胸水など胸膜疾患に対する診断の機会・必要性は今後ますます増えていくものと思われまます。胸部疾患の診断に対しても胸腔鏡手術の手法を用いて積極的にアプローチしていきます。

胸部領域の診療におきましては、これまでも呼吸器内科、画像診断科、放射線治療科と連携して診断治療を行って参りましたが、呼吸器外科の独立を機に一層連携を強化し、診療科横断的な体制で日々の診療と集学的治療に当たっていきたくと思います。

呼吸器外科の標榜により、これまで以上の充実した地域医療連携を行えるよう努めて参りますので、何卒ご指導の程お願い申し上げます。

大阪府立急性期・総合医療センター
呼吸器外科部長 大森謙一

【(継)下肢静脈瘤 血管内レーザー治療を実施しています。—形成外科—】

従来下肢静脈瘤の治療は、医療機関によって血管外科、形成外科、皮膚科などの診療科で行われてきましたが、当院では平成18年より形成外科にて下肢静脈瘤の診断から治療までを一貫して行っております。形成外科で下肢静脈瘤の手術を行うメリットとしては、形成外科独自の繊細な手法により、より整容面に留意した手術結果を得ることが出来ることです。

また、最近ではストリッピング術（大・小不在静脈を抜去する手術）において、従来から使用されてきた外翻式ストリッパーに比べ、組織侵襲の少ない内翻式ストリッパーを導入するなど、患者様にとって侵襲の少ない手術を心がけてきました。

さらに、平成24年10月からは、下肢静脈瘤用レーザー（ELVeSレーザー）を導入し、レーザーを用いた血管内凝固による下肢静脈治療を開始いたしました。本治療は今までのように大きく皮膚を切開する必要がない画期的な血管内手術で、患者様の負担も軽く、症例によっては日帰り手術も可能となりました。費用面においても、平成24年4月より正式に保険適応が認められ、すべて保険で診察が可能です。

今まで症状はあるが、手術まではイヤだと思われていた患者様にも、安心して治療を受けていただけると考えております。

ご相談は 形成外科まで。

【(継)PET-CT検診ができるようになりました—料金 98,000円】

PET検診とは、放射線を微量に放出する検査薬を点滴で体の中に入れることで、

がん細胞に目印をつけ専用の装置で撮影し、小さながん細胞を早期発見していく検査です。使用する放射性薬剤は 18F-FDG というブドウ糖とほぼ同じ性質で副作用は出にくいとされています。また、検査の被ばく量は一般に体幹部のCT検査と同じぐらいで、医学的に問題となる可能性は極めて低いと考えられています。

当センターのPET-CT装置は、PETとCTの画像を同時に撮影することができる機器で一度に全身の（頭部から大腿部）のFDG-PETがん検診とCT検診を受診できます。国内で5台目のTOF技術（Time-of-Flight）を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

検査の所要時間は3～4時間かかります。検査室は、優しく穏やかな雰囲気です。検査薬剤を投与してから約1時間待機していただく待機室には、リクライニングチェアを設置し、毛布や観葉植物、アロマなども用意し、くつろいで過ごしていただける空間となっております。

検査の費用は98,000円です。お申し込みは「患者相談窓口」にお申し出ください。お電話の場合は「医療コールセンター」へご連絡ください。必要書類を郵送させていただきます。検診の結果は、後日、放射線治療科の医師より説明させていただきます。結果説明にお越しになれない場合は、事前にお申し出いただければ、結果郵送も診断専門医・PET診断認定医が行います。

お申し込みの際には、相談室の看護師が対応させていただきますので、検診をお悩み方もどうぞ気軽にご相談ください。

PET検診ご希望の方は「患者相談窓口」にお申し出ください。

電話申し込みは「医療相談コールセンター」

06-6692-2800

06-6692-2801 まで

【(継) 新たな専門外来—喘息専門外来を開設しました！ 免疫リウマチ科】

このたび、気管支喘息（喘息）治療の標準化、喘息発作患者さんの受け入れ体制の改善、そして喘息死ゼロを目指して、喘息専門外来（成人）を開設しました。

気管支喘息（喘息—ぜんそく）の治療は、近年めざましく進歩しました。

喘息の診断にお困りの方、あるいはなかなかよくなる喘息患者さんは是非、当科の喘息専門外来（成人）を受診して下さい。

喘息に関しては、息苦しくなる発作がその時に治まるだけでいいというものではありません。発作を繰り返すことで、将来気管支が細くなったまま広がりやすくになり、また、気管支がより過敏な状態となることで重症になる可能性が高くなります。従って発作を予防する（炎症を治める）治療をすることが最も大切です。

吸入ステロイドを中心とした炎症を治める治療に重点を置き、抗IgE抗体療法なども積極的に導入させていただきます。また、必要な患者さんには喘息日誌やピークフ

ローによる自己管理をお勧めし、その指導をさせていただきます。
ご相談は、免疫リウマチ科 主任部長 藤原 弘士 まで

【(継)「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話で
ご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽
にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター 11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話 で受け付けています！】

当センターでは、下記の11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができる
よう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用くださ
い。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください
ますようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継)入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の概算を予めお知らせするサ ービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入
院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治
療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、昨年、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概
算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新) 第6回脳卒中教室 「脳梗塞」】

日 時 7月9日(火) 午後2時～4時
場 所 本館3階 保健教室
内 容 ・脳梗塞とは (神経内科医長 古門 成隆)
・脳梗塞の治療 (脳神経外科副部長 下川原 立雄)
・日常生活の注意点について (看護師 桂 実希)
・リハビリテーションについて (理学療法士 藤岡 真紀)
(理学療法士 長島 健太郎)
・栄養について (管理栄養士 織田 都)
参加費 無料

【(新) すこやかセミナー 「スキンケアについて」】

日 時 7月11日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 中西 恵美
参加費 無料

【(新) 第15回万代・夢寄席 豊来屋玉之助

～太神楽で梅雨空を吹き飛ばそう～】

日本の伝統芸能である傘回し、皿回し等の純和風の曲芸からなる太神楽、大人から子どもまで幅広く楽しんでいただけます

日 時 7月16日(火) 午後2時～
場 所 本館3階 講堂
入場料 無料

【(新) 大好評！ 相愛大学連携 第28回 外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

日 時 7月17日(水) 午後1時～3時30分
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 食事診断 13時～14時
講演 14時～15時30分

- ・糖尿病網膜症の話 (糖尿病代謝内科医師 片岡 隆太郎)
- ・四肢血圧同時測定「ABI」って何？
(検査科臨床検査技師 藤田 武)
- ・間食 (栄養管理室管理栄養士 笠井 香織)

参加費 無料

【(新) すこやかセミナー 「輸血今昔物語」】

日 時 7月26日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 臨床検査科 岩田 和友子
参加費 無料

【(継) 第9回病院ギャラリー企画展

岩宮武二 “アンコールワットで仏像を撮る” 写真展】

岩宮武二は1920年に鳥取県米子市に生まれ、89年に没するまで、日本を代表する写真家として活躍。1966年46歳で大阪芸術大学の教授となり、後進の育成に貢献した。「今に生きる」を座右の銘にしていた岩宮が、クメール・ルージュによる厳しい破壊にもかかわらず生き残ったアンコールワットの仏像たちを過去から現在、現在から未来への時間的流れのなかで優しく切り取った秀作で今回の企画展を構成。

(本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。)

開催期間 2013年4月22日(月)～8月23日(金) (午前9時～午後5時30分)

(展示作品 35点—撮影1986年)

- ・アンコールワット正面全景
- ・獅子
- ・カウラーヴァ軍とバーンタヴァ軍の戦闘
- ・バーンタヴァ軍と軍像
- ・群舞するデヴァター
- ・連子窓
- ・南大門・アンコールトム
- ・像の訓練・象のテラス
- ・戦闘用の牛車・象のテラス
- ・踊る守護神・象のテラス
- ・人々の暮らし・バイヨン
- ・闘うチャム軍とクメール軍
- ・蓮の上で踊るアプサラス・バイヨン
- ・第一回廊と中央祠堂
- ・経蔵
- ・闘う兵士と怪鳥
- ・十字中回廊
- ・十字中回廊の諸尊
- ・アシュラ像・アンコールトム
- ・南大門四面仏・アンコールトム
- ・たわむれる子どもたち
- ・五つ頭の神馬・象のテラス
- ・第一回廊・バイヨン
- ・食事の支度・バイヨン
- ・第一回廊列柱・バイヨン
- ・中央祠堂・バイヨン

- ・四面塔
- ・バンテアイ・フレイ正面
- ・守護神
- ・五つ頭のナーガ
- ・プレー・ループ全景
- ・バイヨンの微笑
- ・獣面人身像
- ・グリシュナとバララーマ
- ・人面塔・プリヤ・カン

【(予告) 第16回万代・夢寄席 ～三代目桂春団治一門会～】

真夏の暑さは我慢できても、落語の笑いは我慢できないかも…!

日 時 8月8日(木) 午後2時～
 場 所 本館3階 講堂
 出 演 桂 一蝶 桂 小梅
 入場料 無料

【(予告) すこやかセミナー 「腰部脊柱管狭窄症」】

日 時 8月23日(金) 午後11時～12時
 場 所 本館3階 保健教室
 講 師 整形外科医長 渕矢 剛司
 参加費 無料

【(予告・募集) 作品展(コスモス会の開催と作品の募集について)】

今年も当センターとコスモス会の共催による作品展を10月28日から30日の間、本館3階講堂で開催する予定です。つきましては、出展作品を下記のとおり募集いたしますので、皆さん奮ってご応募ください。

応募資格 患者さんとその家族及び病院関係者
 応募方法 出展ご希望の方は、当センター総務グループ(06-6692-1201 内線2313)へお問い合わせください。
 応募作品例 絵画、写真、書道、手芸ほか
 作品受付日 10月28日(月) 午前9時～10時
 作品返却日 10月30日(水) 午後4時～5時

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで季節の訪れを感じようー北側通路ー】

本館と北1号館に挟まれたプロムナードは、狭い空間ですが小さな遊歩道もあり院内格好の憩いの場となっています。通路を挟んだ両側には、「ウバメガシ」、「モッコク」、「イムマキ」、「イロハモミジ」、「シラカシ」、「スダジイ」、「モミジ」、「アオキ」、「アセビ」、「クチナシ」、「ドウダンツツジ」、「ナンテン」、「アジサイ」、「ナリヒラダケ」など中高木から低木類までさまざまな種類の樹木が植えられています。

プロムナードでは、皆さんがこれらの木々の間で東の間でもくつろいでいただけるようベンチや椅子、テーブルを設置しています。機会があればぜひ、憩いの場としてご利用ください。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 外来クラーク 末永さんの巻】

先日、とてもうれしい出来事がありました。

初診で来られた女性の患者様が声をかけてくださり、10年近く前に息子さんが当センターを受診された際にも、私が受付をしていたことを覚えていてくださったのです。

「笑顔がとても素敵だったのでよく覚えています。今日は、自分が診察なので不安で一杯だったのですが、あなたの顔を見て安心しました。」とのことでした。

正直なところ、私はこの患者様のことを覚えていなかったのですが、私の対応が、このように患者様の印象に残ることがあるのだなと驚きました。

10年前というと、入社したばかりの新人で、緊張感や不安感の中で毎日必死に業務に取り組んでいた頃だと思います。今は経験を重ね、無難に仕事をこなすことができるようになったかもしれませんが、あの頃のような緊張感や誠実さを忘れてしまっただろうかと自分を見つめなおすきっかけになる出来事でもありました。

これからも初心を忘れず、患者様に安心していただけるような心配りのできる仕事をしていきたいです。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。